

議員視察研修報告書

平成 30 年 5 月 17 日
議会議員 白石多津子

視察 1 日目

日時 : 平成 30 年 5 月 8 日 (火) 14 時～16 時半
視察先 : 愛媛県四国中央市 子ども若者発達支援センター
目的 : 子ども若者の発達、ニート、引きこもり等に関する相談支援業務の視察

視察先施設概要

発達障害などの療育支援機能を統合した愛媛県四国中央市の「子ども若者発達支援センター (愛称・パレット)」。学校や社会での生活に困難がある子どもらを、幼児期から就労期まで一貫して支援。言語聴覚士や作業療法士、臨床心理士などの専門職を含め 48 人が常勤。相談、検査、療育などをワンストップで行う施設である。

四国中央市概要

人口 : 約 89,000 人。
地理 : 愛媛県最東部。

北は瀬戸内海のひうち灘に面し、南部は高知県に、東部は香川、徳島両県に接する。
成立 : 平成 16 年に川之江、伊予三島の 2 市、および宇摩郡の土居町、新宮村が合併し成立。四国中央市の成立により、宇摩郡はなくなった。

子ども若者発達支援業務概要

平成 19 年に、福祉子ども課内に「発達支援室」を設置し、主に子どもの発達に関する悩みに応じてきた。同年 10 月から市の単独事業としては全国 4 番目となる 3 歳から 18 歳までの一貫した「個別支援計画」の策定がスタートした。相談業務を平成 29 年 4 月に開設した「子ども若者発達支援センター」内に設置したことにより、相談の対象年齢を 39 歳まで拡大した。これに伴い相談内容もニートやひきこもりといった若者の悩みにも応えている。発達支援事業は下記 5 本の柱からなっている。

- ① 来所 (電話)、巡回、療育、教育、就学などの相談事業
- ② 発達検査や個別支援計画作成、特別支援学級センター校への支援などの支援事業
- ③ 市民・関係機関・保護者・支援者を中心とした啓発研修を行う事業
- ④ 発達支援センターの他 2 教室における個別療育教室を定期的実施し、運営する事業
- ⑤ 県の教育委員会や発達支援センターと市の関係機関との連携を図る業務



視察レポート

まず感じたのは、平成 16 年に二市一町一村が合併し、平成 19 年には「発達支援室」を設置し、発達支援事業を行っているスピード感とインクルージョンへの熱意である。発達支援事業は上の 5 つの事業、業務からなっているが、その核となっているのは 3 歳から 18 歳まで引継がれていく「個別支援計画(※1)」であろう。その子どもを支えていきたい、より良い支援になるようにと、都度関係者が集まり検討会議が行われているとのことである。支援引継ぎシートも活用し、子どものその時期に合った支援を行っている。

また、レスパイトケアの充実やワークライフバランス実現への働きかけなど、親が孤独に悩み苦しむことがないように細やかな配慮が行き届いていると感じた。「共に生きる」という思いが随所に感じられる。

支援の連携と引継ぎのツールである「個別支援計画」が活用されているのが、基本的に学齢期までであり、その先に繋いでいくシステムについては課題が残るのだろうと感じる。

(※1) 乳幼児期から学校卒業まで、一貫した支援を行うことができるようにするための計画の策定で、障がいや発達課題のある子ども一人ひとりを、関係機関（医療・保健・福祉・教育・就労）が連携して効果的に支援するための計画である。個別支援計画を作成することにより、本人や保護者が目標、支援内容や支援の方法や情報共有ができ、外部機関との連携もスムーズに行える。個人情報の保護も重要なので、個別支援計画作成に関する情報保守を記載した同意書にサインをもらった上での作成ということになる。

以上

視察 2 日目

日時 : 平成 30 年 5 月 9 日 (水) 10 時～12 時
視察先 : 徳島市名東町 児童発達支援センター にこにこ園
目的 : 児童発達支援業務の視察

視察先施設概要

児童発達支援センター「にこにこ園」は、天満病院グループ発達支援部門である社会福祉法人みらい部門に属する（もうひとつは医療法人栄寿会）。天満グループの基本理念は「和顔愛語」である。

徳島市名東町（みょうどうちょう）概要

人口：254,766 人

地理：徳島市の中央部、鮎喰川右岸に位置する。市街地に近い農村地域であるが、宅地化も進んでいる。西境を鮎喰川が北流し、右岸堤防上を徳島県道 21 号神山鮎喰線が通る。南端の僧都付近で道が分岐しているが、東側の道は鮎喰川の旧堤である。新堤と旧堤に囲まれた地域に、市営名東団地が造成されてから宅地化が進んだ。地内中央を南北に徳島県道 203 号鮎喰新浜線が通る。同道は眉山山系の地蔵越を経て八万町へ通じる。この谷の谷口に溜池があり、その南に安産祈願の寺として有名な地蔵院がある。

児童発達支援業務事業施設の概要

【児童福祉事業】

児童発達支援センター にこにこ園
児童発達支援事業所 こども未来ステーション徳島
児童発達支援事業所 こども未来ステーション神戸
放課後等デイサービス ジュニアクラブ
放課後等デイサービス ジュニアクラブ蔵本

【相談支援事業】

指定相談事業所 にこにこ園

【障害福祉事業】

就労移行支援事業所 ワークステーション未来
就労継続支援 A 型事業所 ワークスタイル A
就労継続支援 B 型事業所 ワークスタイル B

児童発達支援業務業務の概要

神戸、徳島を除く上記の事業が一带に位置し、連携がしやすくなっている。就業先についてもワークステーション未来があり、天満病院グループでの就労がある程度確保されている事や、医療との連携も保護者を安心させる要因でもある。



児童発達支援センターにこにこ園では、発達にアンバランスさの見られる就学前のお子様を対象とした療育を行っている。“発達のアンバランス”＝“凸凹（でこぼこ）”の“凸（でこ）”についてはそれを“強み”としてとらえ、強みを生かした環境面の配慮の仕方やお子様への効果的な伝え方について考えていく。“凹（ぼこ）”の部分については凹み（へこみ）の部分をサポートするその工夫の仕方やコツについて考え、保護者の方と協働してお子様の理解を進めていく。これらの基本理念のもと併設されたカフェや各教室に様々な工夫がみられた。







就労移行支援事業では生産活動、職場体験等の活動の機会の提供、その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行っている。また、求職活動に対する支援では、障がいのある人の自己理解を支援し、就労意欲を高めるように利用者相互で高め合える機会を作っているということである。

視察レポート

地域において、子どもたち一人ひとりの個性や特性が尊重され、地域社会で生き生きとのびのびと安心して暮らしていくために、本人はもとより保護者にとっても一番の心配は、「自立できる環境かどうか」であると思う。その環境づくりのために「就労できる」ということはとても大切で将来への安心感にも繋がる。また、幼児期より環境に大きな変化のない地域で、シーツの洗濯や、洗濯たたみ、掃除、調理補助など就労が保障されているのは何よりの環境である。基本となる業務以外にも、自分にできることは何かを見つけ、クリーニングの依頼者から希望がある場合には、刺繍を施して返すというアイディアは素晴らしいと思った。支援する職員が果たす重要な役割はアセスメントであり、子どもたちの長所を見つけ、それを本人にわかりやすく伝える事が大切だ。「就労支援」の次に重要なのは『定着支援』である。生活のリズムや職場の人間関係がスムーズに行くように、職場に定着できるよう、サポートの充実が大切だと感じた。